

小児医療委員会主催

小児在宅医療実技講習会報告

開催日時：2015年6月28日

開催場所：北海道大学学術交流会館

北海道札幌市北区北8条西5

参加費：6,000円（昼食費含む）

参加者数：52人（定員60名）（申し込み62名，事前キャンセル5名，当日不参加5名）

後援：赤ちゃん成育ネットワーク，新生児医療連絡会，日本小児在宅医療支援研究会，北海道大学小児科，札幌医科大学小児科，旭川医科大学小児科，北海道医師会，北海道小児科医会，札幌市小児科医会，日本小児科学会北海道地方会

概要：日本小児科学会主催としては初めての，小児在宅医療の基礎知識と基本技術の習得を目的とした講習会。講義と実習人形による実習，人工呼吸器やカフマシンの体験学習を組み合わせた。

プログラム内容：

1. 開会の挨拶（日本小児科学会会長 五十嵐 隆）
2. 北海道の重症心身障害児（者）の現状と在宅医療の必要性（北海道療育園 平元 東）
3. NICUと開業医の連携について（倉敷中央病院小児科 渡部 晋一）
4. 在宅酸素療法（HOT）の実際（倉敷中央病院小児科 渡部 晋一）
5. 胃瘻管理の実際（旭川医科大学小児外科 宮本 和俊）
6. 「在宅酸素」と「胃瘻」に関する実習
7. 企業展示とプレゼンテーション（プレゼン企業9社）
8. 診療報酬請求と福祉制度（さいわいこどもクリニック 宮田 章子）
9. 在宅人工呼吸器の実際（医療法人稲生会生涯医療クリニックさっぽろ 土島 智幸）
10. 小児気道確保手術の実際（北海道立子ども総合医療・療育センター耳鼻咽喉科 光澤 博昭）
11. 「カフマシン・IPV」と「気管切開カニューレ」の実習
12. 小児在宅医療の実際（ホサナファミリークリニック 一木 崇宏）
13. 閉会の挨拶（日本小児科学会・小児医療委員会委員長 舟本 仁一）

参加者内訳：北海道外17名（東京都3名，千葉県3名，奈良県2名，秋田県2名，岩手県，群馬県，高知県，埼玉県，鳥根県，兵庫県，沖縄県各1名），北海道内35名（札幌市18名，札幌市以外17名）

スタッフ内訳：講師7名，小児医療委員会理事・委員4名，学会事務局2名，他道内から25名（チューター8名，タイムキーパー8名，受付，会場係り，記録係りなど9名）

アンケート結果：参加者52名中43名が回答。本講習会に関する感想では，とてもよかった68%，まあまあよかった30%と，ほとんどの参加者に講習会に満足していただいた。また，今後このような講習会を続けるべきかに関しても，ぜひ続けてほしい74%，できれば続けてほしい26%と回答者全員が，今後もこの講習会を続けることを要望していた。

まとめ：日本小児科学会主催としては初めての小児在宅医療実技講習会で，一部の实習では参加者に不評な点もあったが（在宅酸素の実習では講師の声が聞きづらい，立ったままで辛かったなど），概ね参加者のニーズには応えられ，アンケートへの回答者全員が，継続して開催することを望んでいた。来年以降の講習会では，より参加者のニーズに合う講義，実習を企画したい。

文責：舟本 仁一（小児医療委員会委員長）